

# さかい輪

## かわら版

### 第 13 号

#### 坂井輪中学校区まちづくり協議会だより

## 「新設小学校の通学区域」が決まりました。

新通小学校は、児童数が1,000人を超える大規模校で、現在、敷地内にプレハブ校舎を設置し教室確保している状態です。また、体育館、グラウンドも1,000人規模の小学校としては狭く、子どもたちが自由にのびのびと過ごせる環境とは言えない状態が続いています。

まちづくり協議会では、平成24年度からこの問題に取り組み、平成24年10月に提出した要望書では、通学区域の見直し、及び新通小学校区から坂井東小学校への通学を可能とする学区外就学について要望し、学区外就学の特例については現在も実施されています。

今回のかわら版では、新設小学校の通学区域決定までの経緯、通学区域検討会でまとめられた通学区域についてお知らせします。



- 通学区域検討会メンバー**
- ・坂井輪中学校まちづくり協議会役員6名
  - ・関係自治会の役員7名
  - ・新通小学校PTA保護者代表7名
  - ・新潟市教育委員会事務局



### これまでの経緯

- 平成24年6月 コミ協から市長、教育長に新通小の適正配置に関する要望書提出
- 平成26年9月 新潟市教育委員会から新通小学校の通学区域を見直し、新しい小学校を設置する案について提案があり、まち協臨時総会において承認。検討スタート。

### 平成27年度

- 5月18日(月) 第1回通学区域検討会  
これまでの経緯、通学区域の考え方などの意見交換
- 6月～7月 通学区域の境界になり得る自治会を対象にアンケートを実施
- 7月～10月 各自治会、PTA等関連団体による検討、説明会の実施
- 9月 3日(木) 第2回通学区域検討会  
アンケート結果報告、通学区域(案)の検討(グループ討議)
- 10月 8日(木) 第3回通学区域検討会  
通学区域(案)について、検討会で了承
- 12月13日(日) 住民説明会開催

裏面もご覧ください。

**新設小学校について**

(新潟市教育委員会の回答)

開校時期について

- 建設用地の取得から概ね5年程度掛かる。  
早くても、平成32年度～平成33年度

学区外就学特例について

- 新設校開校に伴い制度はなくなる方向。

今後の新たな宅地開発等への対応について

- 今後、開校までに児童数の大幅な変更が見込まれる状況が発生した場合は、通学区域の見直しを含めた検討を行う。

**新設小学校及び新通小学校  
の通学区域について**



地域と行政が一体となり検討を重ね、坂井輪中学校区に新たな小学校が開校すること、新通小学校と、新設小学校の現段階における通学区域が決まりました。

これにより、平成32年度の児童数の推計は、新設小学校 児童数:523人 学級数19学級、分離後の新通小学校 児童数:518人 学級数18学級となり、両校とも、新潟市教育委員会が提言している「新潟市立小中学校適正配置基本方針」に示されている適正規模となります。

今後は、新設小学校の通学路の整備が必要となります。子どもたちが、安心・安全に過ごせる環境づくりを地域一丸となり推進していきたいと思ひます。

新しい小学校が出来るまでは、最短で5年程度掛かり、その間、新通小学校の過密状態は続きます。ただ、現在通っている子どもたちは、毎日、元気に勉強・遊びに頑張っています。大規模校の中で過ごすことにより、学ぶこともたくさんあると思ひます。子どもたちの今の環境が「可哀想」と思ふのではなく、今の環境だからこそ、できることもたくさんあると思ひますので、今後も地域のみなさまには引き続き暖かく見守っていただきたいと思ひます。

(まちづくり協議会 広報部長 目黒)